

所属 人間生活学部 保育学科		職名 教授	氏名 小 山 和 利
学位 教育学士(北海道大学) 経営学修士(北海学園大学)	特記すべき 資格	高等学校教諭2級免許(社会), 中学校教諭1級免許(社会), 養護学校教諭2級免許, メンタルヘルス・マネジメント検定I種(マスターコース), 日本心理学会認定心理士	大学院における研究指導担当資格 無
I 教育活動			
主な担当科目 <学 部> 家庭支援論, カウンセリング論, 臨床発達検査法, 障害児保育, 教育相談特講			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)			
1) オリジナル資料の作成	2018年4月 ～現在	家庭支援論, カウンセリング論, 臨床発達検査法, 障害児保育において, 毎時間オリジナルワークシートを作成し, 講義の効率化を図るとともに理解を深める工夫をした。	
2) 視聴覚教材等の活用	2018年4月 ～現在	パワーポイントを主に, 静止画や動画等の視聴覚教材を活用して, 授業内容を映像的にイメージできるように分かりやすく伝えた。	
3) 事例(ケースメソッド)を活用した授業展開	2018年4月 ～現在	授業のテーマに関する現場で起こりえる具体的な困難事例を提供し, 自ら解決策を考えることを促し, 相互に意見交換を通じて, 授業内容の実践的な応用力の育成に努めた。	
4) 体験による授業展開	2018年4月 ～現在	臨床発達検査法やカウンセリング論等において, 実際の心理検査の体験的学習を実施し, 検査結果の実用的な理解力を高めるように努めた。	
5) 授業評価の実施	2018年4月 ～現在	コメントシートを毎時間記入してもらうことによって, 講義内容の理解度や疑問点, 進行上の課題点を明らかにして授業の改善に努めた。学生からの評価の多くは好意的であった。	
2. 作成した教科書, 教材			
1) 心理検査事例集の作成	2018年4月 ～現在	心理検査の臨床的な理解を促すため, 典型的な心理検査結果と解釈の基本を体得させる目的で事例集を作成し教材とした。	
3. 教育方法・教育実践に関する発表, 講演等			
1) 平成30年度北海道児童養護施設職員研修会	2018年6月	施設職員を対象に, 社会的養護を担う施設内で, どのようにチームとして子どもをケアしていくのかについて, 子どもの共通理解の方法や職員間のコミュニケーションのあり方等をテーマに説明した。	
2) 旭川心理臨床研修会	2018年9月	臨床心理士を対象に, 投影法心理検査を用いて, 子どもの心理的体験世界にどれだけ近づけるか, そして多職種間の連携で効果的な心理アセスメントの共有のあり方について説明した。	
3) 平成30年度北海道子どもの安全・安心ネットワーク研修会	2018年10月	保健師や療育関係者を対象に, 出生前から子どもの安全を守るためにどのようにネットワークをつくるのかについて, 児童虐待をテーマにして, 就学前から学童期へ繋ぐ養育支援の意義について説明した。	
4) 第2回旭川療育センター地域支援セミナー	2018年11月	グレーゾーンと言われる乳幼児が, 思春期に至ってどのように問題行動へと連続しているのかについて, 言語概念発達の視点から解き明かし, 乳幼児の幅広い療育の重要性について説明した。	
5) 心理治療施設バウムハウス地域貢献事業講演会	2018年11月	心理治療施設の職員及び教員, 児童相談所職員を対象に, 児童相談所・学校・施設の連携の実情を整理し, 連携を困難とする要因, そして解決のための対応について説明した。	
6) 平成30年度富良野地域子どもの安全・安心ネットワーク推進検討会	2019年3月	保健師や児童福祉関係者を対象に, 地域での虐待防止を始めとした子どもの健全育成のために, 乳幼児からの養育支援の重要性と関係機関連携について説明した。	
7) 北海道における子どもの社会的養護を考える会 記念講演会	2019年7月	社会的養護にかかわる施設職員や一般市民を対象に, マスコミで報じられる社会問題としての児童虐待及び虐待対応の現場での実情や課題・限界等について説明した。	
8) 北海道児童家庭支援センター協議会実務者研修会	2019年9月	児童家庭支援センター職員を対象に, 発達障害の概要, 被虐待児の心理, 保護者対応等について, 相談現場での具体的な対応方法について説明した。	
9) 北海道虐待防止協会 講演会	2019年11月	虐待の死亡事例が後を絶たない現状を解決するために, 児童相談所を始めとした児童福祉現場でどのような改革が必要なのかについて, 現場で働く職員の視点から説明した。	
10) 恵庭市要保護児童ネットワーク協議会 児童虐待防止講演会	2019年11月	難しい対応を迫られる子育ての現状と課題について概観し, 子どもの発達支援に携わる職員に求められる子どもの理解, 家族支援そしてよりよい機関連携の在り方について説明した。	
4. その他教育活動上特記すべき事項			

II 研究活動				
研究分野: 児童臨床心理学, 障害心理学		研究キーワード: 心理アセスメント, 心理療法, 発達障害, 非行, 不登校, 虐待, 愛着障害		
研究課題: ①様々な不適応行動を示す子どもの心理的体験世界 ②心理アセスメントに基づく心理支援, 専門職連携				
研究内容: ① 不適応行動を起こす子どもの背景となる軽度発達障害や愛着障害と呼ばれる子どもが, 実際の生活で感じるであろう心理的な体験世界について, 様々な心理検査を用い主に現象学的な視点での接近方法についての考察を深めたいと考えている。 ② 心理アセスメントから導き出される具体的な支援方法とその効果の検証方法, また児童の支援にかかわる多職種間での効果的な連携のための心理アセスメントの解釈の仕方や伝え方について考察を深めたいと考えている。				
科学研究費及びその他外部資金の獲得状況:				
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	担当頁及び編者・共著者名
(著書)				
(学術論文)				
1. 児童生徒指導の実践に生かす子どもの理解の意義と方法～多職種の効果的な連携のためのアセスメント～	単	2018年2月	名寄市立大学保健福祉学部 社会保育実践研究(2号)	23-36頁
2. 児童の進学・社会的自立のための支援と課題～複雑な問題を抱える児童への教育と福祉の協働モデル～	単	2018年2月	保育学科研究紀要 第1号 藤女子大学保育学科	113-123頁
3. 知的能力の高い自閉症スペクトラム障害等の発達障害における福祉的教育的な障害の判断について～実用的な知能や社会生活能力の考え方, 評価の方法, 求められる支援～	単	2019年2月	保育学科研究紀要 第2号 藤女子大学保育学科	69-79頁
(その他)				
1. 子どもの心理的体験世界を知る難しさと大切さ	単	2020年2月 (印刷予定)	非行問題第226号	
III 社会連携・社会貢献				
所属学会 法と心理学会, 全国児童問題研究会, 北海道乳幼児療育研究会, 北海道子ども学会, 北海道児童青年精神保健学会, 産業・組織心理学会, 日本現象学・社会科学会				
(社会的機関の役員委嘱等) <全国>  <道内> 2013年4月～現在 2013年4月～現在 (地域的連携・貢献) 2019年3月～現在 (国際的連携・貢献)			北海道子ども学会 理事 北海道児童青年精神保健学会 理事  北海道における子どもの社会的養護を考える会代表	
IV 学内運営活動				
V 学生支援に関する自己研鑽				
2019年2月26日		「ハラスメント研修会」藤女子大学		